

奈良県未記録のカメムシ目（半翅目）

New records of Hemiptera from Nara, Japan

池田 健一*
Kenichi IKEDA*

奈良県の昆虫相は長らく目録が作成されず不明な状態にあったと思われるが、奈良県レッドデータブック改訂委員会(2017)の出版により、纏まった情報が得られるようになった。筆者は奈良県に在住していた期間である2012～2016年を中心に動植物を撮影してきたが、そのうちカメムシ目で、奈良県レッドデータブック改訂委員会(2017)で記録のない種について、撮影記録ではあるものの、一定の価値があると考えここに報告する。アブラムシ科やカイガラムシ上科は精密な同定では微小な形態の確認が必要であることが多いが(森津, 1983; 河合, 1980)、本稿では肉眼で確認できる外部形態と寄主から種を判断した。カメムシ目の分類・学名・配列は日本昆虫目録編集委員会(2016)、アリ科の学名は寺山ら(2014)、植物の学名は米倉・梶田(2003-)に従った。「データ」の項では撮影地点、続けて括弧内に確認個体数、記録年月日、個体が止まっていた植物場合は植物の種名と部位を示した。撮影はすべて著者による。「備考」では同定の根拠となった点や著者が確認した生態などを記した。

アブラムシ科 Aphididae

1. トウキョウカマガタアブラムシ (図1)

Yamatocallis tokyoensis (Takahashi, 1923)

【データ】奈良市中町近畿大学奈良キャンパス(1有翅型♀, 2013.05.15, イロハモミジ葉上面)

【備考】国内では同属には5種いるが(Sugimoto, 2017)、イロハモミジに寄生するのは、国内の例ではトウキョウカマガタアブラムシのみであることと(Sugimoto, 2017)、Sugimoto(2017)で図示された前翅のカラーパターンの一致から本種と判断した。イロハモミジ *Acer palmatum* Thunb. 葉上面で静止していた。

2. ササヒゲマダラアブラムシ (図2)

Takecallis sasae (Matsumura, 1917)

【データ】奈良市中町近畿大学奈良キャンパス(多数の無翅型♀と有翅型, 2012.06.26, ササ属新梢)

【備考】台湾ヒゲマダラアブラムシ *T. taiwanus* (Takahashi, 1926) と類似するが、ササヒゲマダラアブラムシでは有翅虫が緑色でササの新梢先端に寄生することから(松本, 2008)、本種と判断した。アミメアリ



図1. トウキョウカマガタアブラムシ有翅型♀



図2. ササヒゲマダラアブラムシ

Pristomyrmex punctatus (Smith, 1860) による随伴が見られた。落葉広葉樹林縁でみられた。

3. アラカシケダアブラムシ (図 3)

Greenidea nigra (Maki, 1917)

【データ】 奈良市中町 (多数の無翅型♀, 2017.11.03, アラカシ新梢)

【備考】 同属にはニホンケダアブラムシ *G. nipponica* Suenaga, 1934 やクワナケダアブラムシ *G. kuwanai* (Pergande, 1906) などがいるが、アラカシケダアブラムシではアラカシ *Quercus glauca* Thunb. を寄主にすることから (Sugimoto, 2008; 安達・吉富, 2013)、本種と判断した。トビイロケアリ *Lasius japonicus* Santschi, 1941 による随伴が見られた。富雄川で見られた。

4. イタドリオマルアブラムシ (図 4)

Macchiatella itadori (Shinji, 1924)

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (多数の無翅



図 3 アラカシケダアブラムシ無翅型♀



図 4 イタドリオマルアブラムシ無翅型, 有翅型♀

型♀と有翅型, 2012.10.13, イタドリ葉下面及び葉柄)

【備考】 類似種として挙げられるユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* Patch, 1914 は背面に斑紋がない (松本, 2008)。落葉広葉樹林縁でみられた。

5. ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ (図 5)

Aulacorthum nipponicum (Essig et Kuwana, 1918)

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (4 無翅型♀, 2012.06.28, ヘクソカズラ葉上面)

【備考】 類似種として挙げられるヘクソカズラ *Paederia foetida* L. 寄生のエサキヒゲナガアブラムシ *A. esakii* (Takahashi, 1924) は暗緑~黒色である (松本, 2008)。

カタカイガラムシ科 Coccidae

6. クワワタカイガラムシ (図 6)

Pulvinaria kuwacola Kuwana, 1907

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (1 ♀, 2013.05.15, ソメイヨシノ葉下面)



図 5 ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ無翅型♀



図 6 クワワタカイガラムシ♀

【備考】肉眼で確認できる外部形態とソメイヨシノ *Cerasus x yedoensis* (Matsum.) 'Somei-yoshino' を寄主にすることから (河合, 1980)、本種と判断した。

トガリキジラミ科 Triozidae

7. タイワントガリキジラミ (図7)

Trioza formosana Kuwayama, 1910

【データ】奈良市中町 (1ex., 2013.04.12, ヤブツバキ葉下面)

【備考】同定には井上ら (2017) を参照した。ヤブツバキ *Camellia japonica* L. への寄生は知られていないので分散中の個体であったと思われる。撮影地周囲には自生のトウネズミモチ *Ligustrum lucidum* Aiton と植栽のクロガネモチ *Ilex rotunda* Thunb. が多数あり (西野・桜谷, 2011)、これらに寄生していたものと思われる。近大坂と俗称される車道沿いの草地でみられた。

8. クリトガリキジラミ (図8)

Trioza remota Förster, 1948



図7 タイワントガリキジラミ



図8 クリトガリキジラミ♀

【データ】奈良市中町 (1 ♀, 2013.04.09, オランダミミナグサ葉上面)

【備考】同属には多数種が居るが、クリトガリキジラミにみられる翅脈の形態や、長く先端は丸い額錐、細長く伸長する雌交尾器先端から (井上ら, 2017)、本種と判断した。オランダミミナグサ *Cerastium glomeratum* Thuill. への寄生は知られていないので分散中の個体であったと思われる。寄主として知られるクヌギ *Quercus acutissima* Carruth. アベマキ *Q. variabilis* Blume コナラ *Q. serrata* Murray クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. (井上ら, 2017) のキャンパス内での自生はいずれも確認している。近大坂と俗称される車道沿いでみられた。

ヨコバイ科 Cicadellidae

9. ヤノズキンヨコバイ (図9)

Idiocerus yanonis Matsumura, 1912

【データ】奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (1 ♀, 2013.04.08, ヤマモモ葉下面)

【備考】同属別種とは生息地及び体色が異なる (紙谷,



図9 ヤノズキンヨコバイ♀

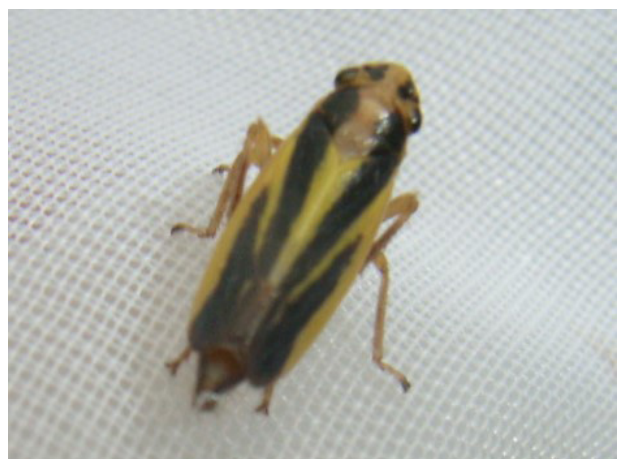


図10 キスジカンムリヨコバイ

2008；日本昆虫目録編集委員会，2016）。植栽のヤマモモ *Morella rubra* Lour. の葉下面に静止していた。

10. キスジカンムリヨコバイ (図 10)

Evacanthus interruptus (Linnaeus, 1758)

【データ】 奈良市中町 (1ex., 2012.06.23)

【備考】 同属のクロキスジカンムリヨコバイ *E. fatuus* Anufriev, 1970 とは体色で見分けられると思われるが、2種の色彩には変異があり、外見での区別は困難とする指摘もあるため (矢崎, 2016)、留意が必要である。筆者は複数個体観察したがいずれも写真と同じ色彩であった。草本をスウィーピングした所、付着していたものを撮影した。なお国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所 (2018) でも記録がある。

11. *Ziczacella* 属の一種 (図 11)

Ziczacella sp.

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (1ex., 2012.07.12, ヨモギ葉上面)



図 11 *Ziczacella* 属の一種

【備考】 本州に分布する本属の種としてはイナズマヒメヨコバイ *Z. hirayamella* (Matsumura, 1932) と *Z. dworakowskiae* (Anufriev, 1969) が知られているが (日本昆虫目録編集委員会, 2016)、雄交尾器によって区別されるため (Hossain et al., 2019)、写真での同定は不可能だが、奈良県レッドデータブック改訂委員会 (2017) で *Ziczacella* 属の報告はないので、参考のために本報告に含めた。ヨモギ *Artemisia indica* var. *maximowiczii* (Nakai) が寄主であるかは不明である。落葉広葉樹林縁で見られた。

ミズギワカメムシ科 Saldidae

12. *Saldula* 属の一種 (図 12)

Saldula sp.

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (1ex., 2012.06.28)

【備考】 ピントがずれているため、属にとどめた。背面の斑紋からミズギワカメムシ *S. saltatoria* (Linnaeus, 1758) かエゾミズギワカメムシ *S. recticollis* (Horváth, 1899) と思われる。前脚脛節背面の黒色縦条紋で区別できるが (林・



図 13 モチツツジカスミカメ



図 12 *Saldula* 属の一種



図 14 スコットヒョウタンナガカメムシ

宮本, 2018)、写真では確認できなかった。奈良県レッドデータブック改訂委員会(2017)で *Saldula* 属含むミズギワカメムシ科の報告はないので、参考のために本報告に含めた。落葉広葉樹林縁の弱い流れのある湿地で見られた。

カスミカメムシ科 Miridae

13. モチツツジカスミカメ (図 13)

Orthotylus gotohi Yasunaga, 1993

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (1ex., 2012.06.13, モチツツジ葉上面)

【備考】 観察用にケースにいれたものを撮影した。落葉広葉樹林のモチツツジ *Rhododendron macrosepalum* Maxim. の葉上面では多数確認できた。

ヒョウタンナガカメムシ科 Rhyparochromidae

14. スコットヒョウタンナガカメムシ (図 14)

Pamerana scotti (Distant, 1901)

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (1ex., 2014.05.27)

【備考】 同定には石川・友国(2012)を参照した。キャンパスのコンクリート柵を徘徊している様子を撮影した。

ツチカメムシ科 Cydnidae

15. コツチカメムシ (図 15)

Macrosctus fraterculus Horvath, 1919

【データ】 奈良市中町近畿大学奈良キャンパス (1ex., 2013.06.11)

【備考】 ツチカメムシ *M. japonensis* Scott, 1874 と類似する



図 15 コツチカメムシ

が、コツチカメムシでは前胸背瘤状部の後方および小楯板は点刻で密に覆われ、点刻は一樣に細かいことから(井村・石川, 2012)、本種と判断した。道路のアスファルト上を徘徊している様子を撮影した。なお国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所(2018)でも記録がある。

引用文献

- 安達修平・吉富博之. 2013. 愛媛県のアブラムシ 2. 面河山岳博物館研究報 5: 11-22.
- 林正美・宮本正一. 2018. 半翅目. 329-428. In. 川合禎次・谷田一三共編 2018. 日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版. 東海大学出版部, 平塚.
- Hossain, M. S., & Kwon, J. H. 2019. Taxonomic revision of the microleafhopper genus *Ziczacella* Anufriev 1970 from Korea (Hemiptera: Cicadellidae: Typhlocybinae). *Zootaxa* 4571 (3): 363-372.
- 井村仁平・石川忠. 2012. ツチカメムシ科. 445-456. In. 石川忠・高井幹夫・安永智秀(編) 2012. 日本原色カメムシ図鑑 陸生カメムシ類 第3巻. 全国農村教育協会, 東京.
- 井上広光・松本浩一・宮武頼夫. 2017. キジラミ類(カメムシ目)の絵解き検索(改訂版). 5-52. In. 初宿成彦(編) 2017. 絵解きで調べる昆虫 2 環境アセスメント動物調査講演会 絵解き検索シリーズ総編集. 文教出版, 大阪.
- 石川忠・友国雅章. 2012. ヒョウタンナガカメムシ科. 321-362. In. 石川忠・高井幹夫・安永智秀(編) 2012. 日本原色カメムシ図鑑 陸生カメムシ類 第3巻. 全国農村教育協会, 東京.
- 紙谷聡志. 2008. ココバイ科. 186-198. In. 平嶋義宏・森本桂(編) 2008. 原色昆虫大図鑑 第3巻 トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目他 新訂. 北隆館, 東京.
- 河合省三. 1980. 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. 445 pp.
- 国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所. 2018. 平成29年度大滝ダム定期報告書. 国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所. 奈良. 444 pp. https://www-1.kkr.mlit.go.jp/river/followup/news/pdf/otaki_29teiki.pdf
- 松本嘉幸. 2008. アブラムシ入門図鑑. 全国農村教育協会, 東京. 239 pp.
- 森津孫四郎. 1983. 日本原色アブラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. 545 pp.

- 奈良県レッドデータブック改訂委員会 . 2017. 奈良県野生生物目録 . 暮らし創造部景観・環境局景観・自然環境課, 奈良 . 422 pp.
- 日本昆虫目録編集委員会 . 2016. 日本昆虫目録 第4巻 準新翅類 . 権歌書房, 福岡 . 629 pp.
- 西野済・桜谷保之 . 2011. 近畿大学奈良キャンパスにおける庭園木クロガネモチの分布 . 近畿大学農学部紀要 44: 17-22.
- Sugimoto, S. 2008. A revision of the genus *Greenidea* Schouteden in Japan (Homoptera: Aphididae: Greenideinae). *Insecta matsumurana*. New series: journal of the Faculty of Agriculture Hokkaido University, series entomology 64: 53-79.
- Sugimoto, S. 2017. Revision of the genus *Yamatocallis* Matsumura in Japan (Hemiptera: Aphididae). *Insecta matsumurana*. New series: journal of the Faculty of Agriculture Hokkaido University, series entomology 73: 39-63.
- 寺山守・久保田敏・江口克之 . 2014. 日本産アリ類図鑑 . 朝倉書店 . 東京 . 278 pp.
- 矢崎充彦 . 2016. カメムシ目 . 66-82. In. 豊田市生物調査報告書作成委員会 (編) 2016. 豊田市生物調査報告書, 豊田 .
- 米倉浩司・梶田忠 . 2003-. BG Plants 和名-学名インデックス (YList) . <http://ylist.info>